

原著論文

看護師国家試験に対する学生の意識

新里穂久斗、内藤雪枝、塚本恭正

要 旨

背景:看護師国家試験に合格しなければ看護師として働くことができない。全国の合格率は約9割で、大部分の学生が合格する試験ではあるが、この試験を不安に感じている学生が多い。看護師国家試験は看護師として社会的な身分を確立する資格試験であるとともに、看護系学生にとっては大きな壁と映り、心理的な負担を感じさせる存在である。これまで学生が国家試験をどのように意識しているのか、学生生活にどのような影響を与えているのかについて調べた研究はほとんどなかった。

目的:看護系学生が看護師国家試験をどのように意識し、それが学習を含む学生生活にどのような影響を及ぼしているのかを調査する。そして国家試験の意義について考察する。

方法:調査研究。A短期大学の看護学科1～3年生を対象としたアンケート調査。

結果:学生の多くは自分の学力に自信がなく、不合格になるかもしれないという不安から看護師国家試験を意識していた。国家試験に対して不安を感じる一方で試験対策を進めるわけではなく、日々の忙しさなどを理由にして試験対策学習を先延ばしにする学生が多い。また、国家試験の試験範囲は膨大であり、学習には困難が伴うため、多くの看護系学生はやらなければいけないと考えるものなかなか手を付けられないまま時間が過ぎている傾向がある。試験制度に関しては、看護師になるために必要な学習項目の指標として捉えており、特に不満を感じているわけではなかった。一方で、国家試験対策学習を通して得られる知識は看護師に必要な能力の一部に過ぎなく、技術の習得や看護の心の涵養には役に立たないという意見もあったが、理想とする看護師になる際に「知識が身につく」や「余裕ができる」、「自信になる」といった肯定的な意見も多かった。

結論:医療従事者として患者の生命を預かる看護師は、看護技術や看護の精神の習得だけではなく、一定レベルの知識を身につけることが必須である。この一定レベルの知識の基準を示すものとして厚生労働省が公示している看護師国家試験出題基準があり、試験に合格することで一定レベルの知識を持っていることが証明される。試験制度は完璧なものではないが、国家試験の意義を学生はしっかりと認識し、目的意識をもって普段の学習を行うべきである。国家試験学習をしないであいまな知識や理解のまま医療職に就くことは社会的にも認められない。ただ、試験に合格するためだけに知識を丸暗記するといったことは意味がない。医療技術や生命現象に対する研究は日々進歩しており、丸暗記した知識では理解することが難しい。大事なのは体のしくみ、生命現象、疾病の成り立ち、治療行為を理解し、根拠を知ることである。こうした理解を基に看護行為が行われるべきである。学生は国家試験に合格することを全ての目標とするのではなく、クリアすべき1つの基準として捉え、理想とする看護師になるための努力をすべきである。

キーワード:看護師国家試験、学力、学習意欲、学生生活

所属:Hokuto Niisato, Yukie Naito, Yasumasa Tsukamoto

岩手看護短期大学 看護学科

序 論

看護師として医療機関で働くためには卒業時に看護師国家試験に合格することが必須であり、私は入学時から国家試験を漠然と意識していた。特に3年生に進級してからはその意識は切実なものとして感じられるようになり、授業でも国家試験と関係するののかという視点で学習する項目を区別していることがあった。

これに対しクラスメートのBさんは、「国家試験対策は卒業論文が終わってから詰め込みでやって合格すればよく、今は、卒業論文や実習、日々の学習を優先し、良い看護師になるために努力すべきだ。」と考えていることを知り、自分の考えとは全然違うことに驚かされた。

私は、看護師国家試験は看護師として身につけておくべき知識を確かめるものであり、試験を意識して学習することに疑いもなく意義を感じていたが、看護師になるための学習において国家試験をどう位置付けているかは個人によって差があることに気付いた。

私は本研究において看護系学生が看護師国家試験をどのように位置付けて学習しているのかその意識を調べ、また国家試験の捉え方の違いが学習の意欲に影響を与えるのかどうかについて調査を行った。

方 法

研究対象：

A 短期大学 看護学科 1年生(70名)、2年生(66名)、3年生(64名)

データ収集方法：

予備調査で3年生15名にインタビューして学生の看護師国家試験に対する意識を調査し、それをもとに質問項目を設定し、質問紙を作成し看護学科の1～3年生にアンケート調査を実施した。

アンケート実施日：

1年生：4月27日、2年生：5月15日、3年生：5月9日

倫理的配慮：

以下の項目を順守して研究を行った。

- 研究の趣旨・目的を説明し、協力を得る。

- 得たデータの匿名性を保証し、個人のプライバシーを保護することを約束する。
- 質問紙は無記名とし、研究以外でそのデータを用いない。
- 結果は統計的に処理し、研究目的以外では使用しない。
- 調査への協力を辞退されても何ら不利益を被らないことを説明する。

結果と考察

普段の学習で看護師国家試験を意識する学生が多い

「看護師国家試験を普段の学習(講義・実習・自宅学習など)の中で意識しているか」という質問に対して「意識している」と答えた学生は、1年生が76%、2年生が82%、3年生が89%と、ほとんどの学生が国家試験を意識して学習していることが明らかになった。本調査は4～5月に実施しており、入学して間もない1年生まで国家試験を意識する理由として、看護師を目指して入学し、より将来について明確に考えるゆとりが出てきたときに、まだよくは知らないが国家試験に合格しなければ看護師になれないという漠然とした不安を感じるようになったためだと考えられる。また学生交流会などで上級生たちの国家試験に対する不安を耳にするにつれ、ますます国家試験に対して恐れを感じながら意識するようになっていっているのではと私自身の経験から思う。

調査結果からは学年を経る毎に普段の学習から看護師国家試験を意識する学生が増えている。これは国家試験が近くなるほどより切実な問題になるからだと解釈できる。また、国家試験を普段の学習から意識する理由は、1～3年生で共通しており、1年生では「自分の学力が低いから」(66%)、2年生では「不合格になるかもしれないから」(69%)。3年生では「自分の学力が低いから」(70%)がそれぞれ最も多く、どれも自分の学力に対して不合格になるかもしれないという危機感から看護師国家試験を意識していることが明確に示された。また、「看護職として身につけておくべき知識の基準だけ

ら」と看護師になるために必要な学習項目の指標として看護師国家試験を捉えている学生も学年を通じて約7割存在した。

「学力に不安を感じているから国家試験を強く意識している」と答えた学生についてその理由について詳しく調べたところ、以下のような傾向がみられた。

「学習をしていない」1年生：24%、2年生：45%、3年生：33%。

「勉強の仕方がわからない」1年生：61%、2年生：50%、3年生：39%。

「どの程度学習すればよいのか」1年生：57%、2年生：56%、3年生：36%。

上記の結果は、学力に不安を感じるのは普段から十分に学習をしていない事を自覚しているが、だからといって不安を解消するために学習をするわけでもなく、「学習の仕方がわからない」とか「どの程度学習すればよいのか」という言い訳をしている多くの学生の現状を浮き彫りにしている感じがする。

3年生で、「学習をしていない」「どの程度学習すればよいのか」の回答が1、2年生に比べて少し減少したのは、実際に対策を行っている人が3年生になるにあたって増加してきているためであると考えられる。

また「どの程度学習すればよいのか」と回答した学生は、最低限の学習で合格したい。もしくは、合格するために最も効率のよい方法がわかるまでとりあえず、国家試験の学習や普段の学習は棚上げしている学生の意識が透けて見える。

看護師国家試験について「看護師国家試験で測られる学力は、看護師に必要な能力の一部に過ぎなくても、国家試験が与えられ、医療に関わるためには乗り越えるべき試験の一つである」を答えた学生の割合が、1～3年生で約6割であった。これは、国家試験学習は大変だが、看護師の質を保つためには乗り越えなければならない試練の一つとして捉え、国家試験の存在意義を肯定しているためだと考えられる。その

一方で、頭では看護師国家試験の必要性を認めているができれば避けて通りたいと感じている学生も各学年に約2割いた。

実際に「看護師国家試験対策の学習を本格的に始めていますか。」という問いに「はい」を回答した学生は、3年生で30%と少数派であった。また、「意識して何か具体的な学習をしているか」という問いに、3年生で「国家試験の問題集、参考書を週に2～4日学習している」を選択した学生は、33%程度にとどまり、不安を感じている割には実際の学習が進んでいない様子が見てとれた。

看護師国家試験の心理的負担は徐々に増加する

「看護師国家試験は学生生活を送る上でどれくらい心理的に負担になっていますか」という問いに対して「大きな負担になっており学生生活を十分に楽しめない」や「負担になっており、普段の学生生活にも影響が出ている」と回答した学生は、1年生で7%、2年生で18%、3年生で23%であった。

4～5月の段階で各学年とも学生の大半は国家試験を学生生活に影響するほどの心理的負担としては感じていなかった。ただ、学年を経るごとに国家試験を意識し負担と感じる学生の割合は増えている。国家試験を10ヵ月後に控えた3年生でも2割程度の学生しか国家試験を切実なものとして捉えていない理由として、卒業研究や就職活動、臨地実習など他にやらなければならないことがあることや、クラスの雰囲気はまだ受験を強く意識しておらず、のんびりしていることが挙げられる。ただ、国家試験学習のように面倒で容易ではないものをきちんと自分のものとして捉えず、他で忙しいことがあることを理由として棚上げしているだけのような雰囲気があることも確かである。これについては次の項目で詳しく分析する。

看護師国家試験のための学習を先延ばしにする傾向がある

「看護師国家試験対策の学習を本格的に始めていますか」という問いに対して「始めている」

と回答した学生は、1年生では0%、2年生では6%、3年生では30%であった。1、2年生ではほとんどの学生が、3年生では6割以上の学生が看護師国家試験を意識した学習を始めていなかった。その理由として1年生の77%は「何をやったらいいのかわからないから」を挙げており、2年生の67%と3年生の45%は「始めようとは思っているが、その気になれない」と回答した。1年生は入学したばかりで何をしたらよいか分からないというのはもっともな理由であるが、既に国家試験対策用の問題集を購入している2、3年生は、「始めようと思っはいるが、その気になれない」ため国家試験対策学習を始める時期を先延ばしにしている現状がうかがえた。

看護師国家試験の対策の学習をまだ本格的に始めている理由として「他にやることがある」と回答した学生は、「日々の学習に追われている（1、2年生）」や「アルバイト（2年生）」、「遊び（2年生）」、「卒業論文（3年生）」などを挙げる学生が多かった。3年生は、卒業研究論文の提出期限が7月下旬にあり、卒業論文の作成を国家試験対策学習より優先せざるをえない状況があり、加えて臨地実習も並行してあるために時間や心のゆとりがないことが推察される。

「看護師国家試験の対策の学習をいつから本格的に始めようと考えていますか。」という問いに、1年生では「2年生の春以降から始める」という回答が67%。2年生では「2年生の秋以降から始める」という回答が71%。3年生では、「春から夏にかけての間で行う」という回答が89%であった。全ての学年で今すぐではなく、少し経ってから始めようと考えてはいるが、結局は次々と先延ばしを続け、3年生の夏まで本格的に手につけない学生が多いことが示唆された。このように引け目を感じながらも国家試験対策学習をしないことが「国家試験に不安を感じる」学生が多いことにつながっているのだと考えられる。

授業に国家試験対策を含めて欲しいと考える学

生は多い

「教員が行う日々の学習に国家試験対策を含めてもらいたいのか」という問いに対して「取り入れて欲しい」を回答した学生は、各学年とも9割を越しており、教員に国家試験対策を期待している姿がうかがえた。

また、「授業中に教員が「ここは国家試験に出ます」と言った時、その項目を他よりも意識して学習しようかと思いましたか」の問いに対しては、2、3年生の約7割がその項目について頑張る学習する気になるが、実際に自己学習をする学生はその半数に満たない。

学生は国家試験をどう捉えているか

「あなたはどんな看護師になりたいと考えていますか」の問いに対して回答が多かったのは、「知識のある看護師」、「信頼される看護師」、「技術のある看護師」、「笑顔で明るい看護師」、「優しい看護師」であった。

そして、「その理想としている看護師になるにあたって国家試験対策学習は役に立つと思いますか」の問いに対しては、「大いに役に立つと思う」や「ある程度役に立つと思う」と答えた学生は、1年生で80%、2年生で59%、3年生で67%であった。これは、看護師として持つべき知識を身につけるために国家試験対策学習があると考えているためであり、医療に関わるためには乗り越えなければならないものであると捉えている。その一方で国家試験対策学習では身につかない「優しさ」や「笑顔・明るさ」「信頼」などを重視している学生も多かった。

そして、国家試験対策学習が理想とする看護師になる際に与える良い影響として「知識が身につく」が圧倒的に多く、その他に「余裕ができる」や「自信になる」、「看護師としての意識が上がる」といった回答が見られた。

逆に悪い影響を与えるものとして「技術は国家試験学習だけでは身につかない」や「国家試験に出るところしか学習しない」を挙げる学生がいた。

看護師国家試験は筆記試験だけであるという認識が学生にあり、看護師になるにあたって最

低限必要な知識を測ると考えている。その一方、国家試験対策学習だけでは、看護師として必要な技術や出題範囲外の知識を身につけられないと考える理想の高い看護師像を持つ学生は、それだけでは不十分だと考えている。

まとめ

国家試験対策学習に対する学生の意識を学年ごとに分析したところ以下のことが明らかになった。

ほとんどの学生が国家試験を意識しているが、その理由の多くが自分の学力の低いことを気にしており、不合格になることを恐れている不安からくるものであった。また、国家試験に対して不安を感じる学生の回答からは、危機感を感じるものの普段から学習をしていないことや、勉強の仕方が分からないとか、どの程度学習すればよいのか分からないから本気に学習する気にはなれないといった言い訳を用意しているのが目立った。

看護師国家試験の心理的負担は学年を追うごとに徐々に増加しているが学生生活に直接影響するわけでもなく、3年生では卒業研究や就職活動、臨地実習など他にやらなければならないことを優先し、国家試験対策の学習を棚上げしている学生が多かった。

学生は国家試験学習を「技術は国家試験学習だけでは身につかない」や「国家試験に出るところしか学習しない」と考える一方で、看護師になるために必要な学習項目の指標として看護師国家試験を捉え、看護師に必要な能力の一部に過ぎなくても、国家試験が課せられ、医療に関わるためには乗り越えるべき試験の一つであると考えていた。国家試験対策学習が理想とする看護師になる際に「知識が身につく」や「余裕ができる」、「自信になる」といった肯定的な意見も多かった。

結 論

看護師国家試験に合格することで、私達、学生は看護師として新たな一歩を踏み出せる。看

護師は言うまでもなく医療機関で患者の生命を預かる職業であり、一定レベルの知識を理解し、習得していることが求められる。国家試験は、看護師として求められる知識のレベルを満たしているかどうかを試すための試験であり、試験に合格することで社会的にも認められる。

看護師国家試験は厚生労働省が公示している国家試験出題基準に基づいて出題されているが、その試験範囲は膨大であり、学習には困難が伴うため、多くの看護系学生はやらなければいけないと考えるものなかなか手を付けられないまま時間が過ぎていく傾向がある。

どの資格試験にも共通することであるが、学校で学んだ内容が満遍なく出題されるわけではなく、出題されやすい項目がある程度決まっており、試験対策学習をすることは、過去にほとんど出題されていない領域を切り捨てることにもつながることは確かである。ただし、これを言い訳として試験学習を否定することはできないと思う。アンケート調査でもあったように国家試験対策学習が理想とする看護師になる際に「知識が身につく」や「余裕ができる」、「自信になる」といった肯定的な意見もある。国家試験学習をしないであいまいな知識や理解のまま医療職に就くことは社会的にも認められない。ただ、試験に合格するためだけに知識を丸暗記するといったことは意味があまりないと思う。医療技術や生命現象に対する研究は日々進歩しており、丸暗記した知識では理解することが難しいと思う。大事なのは体のしくみ、生命現象、疾病の成り立ち、治療行為を理解し根拠を知ることである。こうした理解を基に看護行為が行われるべきである。

上記の理由から、学生は国家試験に合格することを全ての目標とするのではなく、クリアすべき1つの基準として捉え、理想とする看護師になるための努力をすべきだと考える。

謝 辞

アンケートに協力いただいた学生の皆様に感謝いたします。

参 考 文 献

前川玉緒, 学習リテラシーに乏しい学生に対する国家試験学習の支援—予備校での実践, 看護教育, 50:584-589, 2009

さわ和代, 国試対策は看護実践力をつける総仕上げ—問題をときながら看護の面白さを知る, 看護教育, 49:297-298, 2008